

令和4年度 第2回日野市廃棄物減量等推進審議会 要点録

- 日時 令和5年(2023年)3月9日(木) 午前9時30分～午前11時30分
- 会場 日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設2階多目的室
- 出席者 **審議会委員**
加納委員(公募市民) 加瀬委員(公募市民) 近藤委員(公募市民)
藤原委員(事業者) 高松委員(資源回収業者)
多治見委員(廃棄物収集業者) 新野委員(廃棄物収集業者)
宮脇委員(学識経験者)
事務局
小笠クリーンセンター長兼施設課長
〔施設課〕細谷課長補佐
〔ごみゼロ推進課〕高尾課長、高橋課長補佐、山口
- 欠席者 松枝委員(事業者) 渡辺委員(学識経験者)
- 傍聴者 なし

1. 会長及び副会長選出
2. 諮問事項
 - ・「第3次日野市ごみゼロプラン(日野市一般廃棄物処理基本計画)の中間検証と後期に向けたプランの改定について(案)」について
 - ・令和5年度一般廃棄物処理計画(案)について
3. 報告事項
 - (1) ごみ・資源物量について
ごみ収集・資源物回収量(1月まで 対前年比較)
 - (2) 施設稼働状況について
可燃施設・プラ施設の稼働状況
 - (3) ごみ減量施策等の実施状況について資料5
 - ・レジごみ袋について
 - ・(株)ジモティーとの共同事業について
 - ・水銀回収キャンペーンについて
 - ・剪定枝等受入について
4. その他

1. 会長及び副会長選出

会長に宮脇委員、副会長に渡辺委員を選出。

(※円滑な審議のため、市の施策や廃棄物処理などの状況について先に説明出来るよう、次第の順番を入れ替え、先に3. 報告事項から進行)

3. 報告事項

(1) ごみ・資源物量について

(2) 施設稼働状況について

<ごみゼロ推進課長>資料3、資料4について説明

<加瀬委員>浅川清流環境組合への搬入量は、一人当たりでは、3市の中で日野市が一番多いのか。

<クリーンセンター長>プラスチックごみ資源化施設からの残渣や市民持込のように、日野市のみ搬入しているものがあるため、大きな数字になっている。また、国分寺市と小金井市は、家庭からの剪定枝を資源化しているが、日野市は可燃ごみとして集めていることも差になっている。

(3) ごみ減量施策等の実施状況について

<ごみゼロ推進課長>資料5について説明

<近藤委員>レジごみ袋は良い取り組みではあるが、プラスチックであることに変わらない。完全に土に還るような素材の袋にできないのか。マイバッグもプラスチック素材を何とか変えられないか。

<ごみゼロ推進課長>土に還るような素材は、袋の劣化の問題もあり、現状では導入が難しい。より環境に配慮した袋を導入できるよう今後の技術開発にも期待し、アンテナ高く情報収集に努めたい。

<近藤委員>剪定枝収集にはどのような課題があるのか。

<ごみゼロ推進課長>収集体制を作る必要があり、多額の費用がかかる。まずは出来るところとして、公共施設のような大きなところから取り組んでいる。

<多治見委員>ジモティースポット日野で、リユースされなかったものはどうなるのか。

＜ごみゼロ推進課長＞若干はどうしてもリユースできずごみになる。極力減らしていきたい。

＜近藤委員＞処理施設から金属はどのくらい出るのか。いくらで売れるのか。

＜施設課課長補佐＞資源としての金属回収には、可燃ごみ焼却後の焼却鉄、不燃ごみの破碎鉄、缶の収集があるが、日野市の「プラスチック類資源化施設」では、鉄・アルミ合わせて、今年度は全体で1千万円くらい売却益がある。ただし市場価格の変化が激しい。

＜高松委員＞（市の委託で収集・処理する資源物については）金属も含めて売却益を市に還元している。だから、市民の分別をすることは市の歳入につながるし、資源持ち去りは市の被害になる。

2. 諮問事項

- ・「第3次日野市ごみゼロプラン（日野市一般廃棄物処理基本計画）の中間検証と後期に向けたプランの改定について（案）」について

＜ごみゼロ推進課課長補佐＞資料1（計画案）と参考資料1、参考資料2に沿って説明

＜宮脇会長＞特に意見なく、案の内容について、審議会として「適当である」答申する。

- ・令和5年度一般廃棄物処理計画（案）について

＜ごみゼロ推進課長＞資料2-1、資料2-2に沿って説明

＜藤原委員＞ごみ減量に向けての具体的な啓発について、アイデアはたくさんあって良いのだが、一般の市民に細かなことまでをいかに知らせていくかが大事。

＜高松委員＞少しの異物混入で多くの資源が無駄になる事例がある。きちんと資源化するために、リサイクルの基本を排出する人に分かってもらえるよう、ごみゼロプランを市民の方に周知していくことが大切。

＜加瀬委員＞人は刷り込まなければ覚えにくい。繰り返しの啓発が大事。

＜高松委員＞資源物への異物混入がなぜだめなのか、具体的な事例をアプリなどを活用して分かってもらいたい。

＜近藤委員＞市のHPは、最近見やすくなった。

＜ごみゼロ推進課長＞広報、エコー、HP、アプリ、LINE と、情報発信ツールは拡大しているが、まだ市民の皆様には十分情報が伝わっていないと感じる。コロナ禍で YouTube など、新しい情報発信のやり方も定着してきた。「市民にどう伝えていくのか」がこれからの大きな課題と考える。

＜宮脇会長＞広報、市民への周知は永遠の課題。情報化の速度が速くなかなか追いつけない。年代層によっても使う情報媒体が違う。特に若い人は少しでも使いやすいものに流れるし、一方高齢でもスマートフォンを使う方も多い。アプリのプッシュ通知機能は、幅広い周知に有効かもしれない。

＜宮脇会長＞今後の審議会については、正式な会議の場と、このような情報交換の場を分けて進行するのも良いのではないか。

＜宮脇会長＞議論を踏まえ、当審議会としては「令和5年度一般廃棄物処理計画（案）」について、数字や表現の若干の修正の上、「内容が適当である」と答申したい。（修正内容については会長に一任）

4. その他 （特になし）

5. 閉会